

フィンランドの 野球を体験

「世界まなびじゅく」

3月8日、忍の里プララで、市内小学生を対象に行う世界文化理解講座「世界まなびじゅく」が行われました。

この日は、フィンランドの国の人をゲストに招き、ビデオでフィンランドの文化を見たり、世界一勉強ができるといわれているフィンランドの子どもの勉強方法を学んだりしました。

また、日本とは違うフィンランドの野球「ペサパッコ」を体験、ペサパッコでは打ってから走る方向が日本とは

違うなど、悪戦苦闘しながら楽しく体験しました。

「世界まなびじゅく」は、平成19年度は5回行われ、この日が最終日で、全5回出席者に記念品が贈られました。



▲ペサパッコ、ちよっと難しいな

2~4万年前の氷、南極から到着

～甲南第一小学校に氷届く～

甲南第一小学校に、南極観測船「しらせ」が持ち帰った南極の氷が届けられました。

これは、同校卒業生に、第一次南極隊員、第六次観測隊隊長を務められた吉川虎雄さんがおられることから今回、自衛隊に依頼、実現したものです。

氷は、南極に降り積もった雪が固まってできたもので、氷の中にある気泡も含めて2~4万年前のものとして推測されます。縦、横25センチメートル、厚さ10センチメートル、4キログラム余りもので、3月21日に届けられ、24日の終業式で児童に披露されました。児童全員が順番に氷に直接接触し、大昔の南極の氷の冷たさを体感しました。

この氷は結晶の観察など理科の授業や環境学習に使用される予定です。



▲自衛隊から氷を受け取る甲南第一小児童

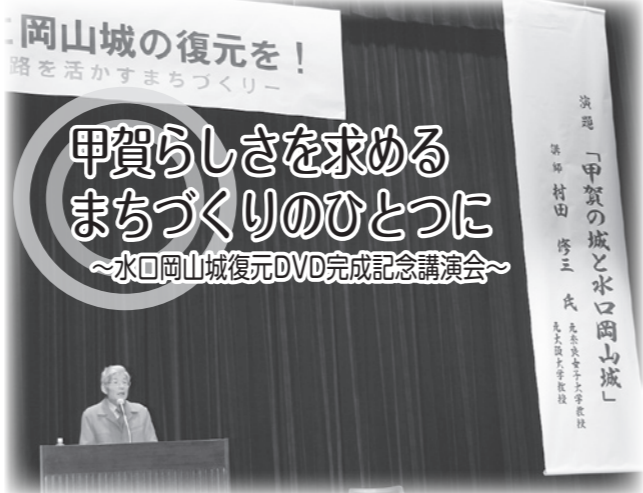
心に響け、和の音色

～甲賀和太鼓まつり～

和太鼓演奏を通じて、市内で活躍されるグループが集まり、3月16日に甲賀和太鼓まつりがあじこう市民ホールで開催されました。

この催しは、甲賀の「小佐治すいりょう太鼓10周年記念事業」として開催されたもので、当日は、小佐治すいりょう太鼓(甲賀)や甲賀忍玉太鼓団(甲賀)龍虎流甲南太鼓保存会(甲南)、紫香楽太鼓(信楽)、和太鼓六友会(土山)の市内の和太鼓グループの他、三重県伊賀市や同紀宝町、東近江市の団体からも参加がありました。

会場には、約500人が来場、会場に響き渡る和太鼓の音色に魅了、時間の過ぎ行くのも忘れるほど心地よい時間を過ごされたようでした。



新しい甲賀市のシンボル「水口岡山城」の復元を市民の皆さんと共に考えようと、3月16日、水口岡山城復元DVD完成記念講演会が開催されました。

水口岡山城の復元については、甲賀市の特色ある歴史文化資源を生かし、「甲賀らしさ」を求めるまちづくりのひとつとなるものです。

市で進めていた復元DVDが完成、市民の皆さんに甲賀市の新しいまちづくりについて考えていただく機会としてDVD試写会と記念講演会を開催したのもです。

DVD試写会に続いて行われた講演会では、元奈良女子大学教授の村田修三氏が講演、岡山城の調査が進み、岡山城の全容が明らかにされることへの期待と城が核となるまちづくりに膨らむ期待など話を聞かせていただきました。

不思議な太鼓、不思議なスポーツに出会ったよ

～世界と出会う玉手箱～

3月22日、自主活動センターきずなで、世界と出会う玉手箱が開催されました。

この事業は、外国で活動を行ってきた青年海外協力隊らにより、その国で出会った文化を紹介するワークショップで、独立行政法人国際協力機構(JICA)の主催で行われたものです。今回は甲賀市で初めての開催で、ガーナの太鼓とブラジルの格闘技カポエイラが紹介されました。

太鼓の胴の部分の締め具合によって音色が変わるガーナの太鼓、参加者は異国の音色を味わいながら全員でリズムを取り楽しみました。

音楽に合わせて、相手に触れずゆっくりとした動作で動くカポエイラは、格闘技とダンスの中間のようなもの。その独特の動きに参加者は悪戦苦闘、自己流のカポエイラで笑いの絶えない時間となりました。



▲青年海外協力隊清水康朗さんから技を直伝

みんながつながり 安心して暮らせるまちへ

～地域福祉大会～

地域福祉大会が3月22日、水口社会福祉センターで開催され、区・自治会長や民生児童委員など約150名が参加しました。

大会では、昨年3月に策定された甲賀市地域福祉推進計画の概要説明の後、「みんながつながる『健康福祉会』」と題してパネルトークが行われました。

パネリストの信楽町小原学区公民館長・寺田健児氏、土山町あずま自主防災会長・中島仁史

氏、甲南町電法師地域福祉推進協議会長・望月公明氏が日ごろ地域で取り組んでいる活動を紹介。参加者からは、数々の質問が寄せられました。

コーディネーターの佐藤伸隆氏は、「福祉のために新たに組織を立ち上げるのは大変。現在ある組織を見直し、活動内容を広げること、誰もが安心して暮らせる地域づくりができる」と述べ、大会を締めくくりました。



▲参加者からの質問に答えるパネリストの皆さん